				,· 🗀																								
		= :	= =	= =	=	=	=	=	= =	= =	= =	: =	=	=	=	=	=	=	=	= :	= :	= =	: =	=	=	=	= :	=
		ŧ	朱豆	戈会	社		京	浜	予队	方图	医学	一研	究	所														
		I			K	M	L	メ.	— <i>)</i>	レニ		_ —	·ス						♦ ·	♦	,	VOL	1	11		•	♦	
	_				_			_																	_		_ [⊒
=	=	= :	= =		=	=	=	=	= =	= =	= =	=	=	<u>=</u>	<u>=</u>	=	=	=	=	= :	= =	= =	=	=	=	=	╙	_
		‡	朱豆	七会	社		京	浜·	予[方图	医学	一研	究	所		ょ	IJ	お	知	Ьt	世到	汝し	ヺ	きす	- !			
П							-												202	234	Ŧ	9 F	3	30	日	発 . ir	行/	
_	_																-1-											
		Κľ	ΛΙ	_ ,	_ _	ル	<u>_</u>	그·	ー ブ じ 喜	ス \ ± -	VOL	. 1 《谷n	11	をき	おい	送た	りだ	致	Ļ:	まる	す。	Н	- <i>H</i>	- -	- M			
		— I	ある		、 サ 、 て	い	た	ただ	けれ	113	ず幸	`1叫 Ēし\	で	ごご	ざざ	い	たま	す	<i>ح</i> ة ه	U '	٠,	ד	53	ニノコ	(0)			
	☆	*	ı	トヒ	゠゚ヅ	ク	ス		* 7	*																		
Г	_					_																						1
		2		火の 学術)ア j研	レ究	ル発	キ· 表	ー オ <i>ゝ</i>																			
		3]	F	< N	1 L	イ	ン	フ	オノ	۷ –	ーシ	/ 3	ン		7	月	~	9	月:	分(かる	お失	0 E	5 世	-			
L	_					_							-	_	_	_												J
г		٦-				_		_		_			_	_	_	_	_	_										_

. 1 】 秋のアレルギー

花粉症といえば春のスギ花粉症がよく知られていますが、秋にも花粉症はあります。
おもにキク科の雑草であるブタクサやヨモギが代表格で、これらの花粉は8月頃から飛びはじめます。
スギ花粉症に比べると発症頻度は低く、また風邪と間違えやすい症状のため、見落するされがちですが雑草花粉は口腔症状と関連もあり注意が必要です。
秋は花粉以外にもガやユスリカなどの昆虫アレルゲンや、年間を通じて存在するダニやペット、ゴキブリなどアレルギー性鼻炎引き起こすアレルゲンはと意外と多い季節でもあります。
症状がひどくなる前に適切な診断を受け、原因アレルゲンを除去・回避することが治療のうえで重要です。

- ●秋の花粉症。原因はおもにキク科植物 秋に飛散する花粉としてイネ科植物、キク科のブタクサ、ヨモギ、またクワ科のカナムグラがあげられます。特にキク科の花粉が秋の花粉症の原因となることが知られています。 ブタクサやヨモギは口腔症状を引き起こす可能性があります。 ブタクサ花粉症の方はスイカ、ときに主に口腔症状が粉症の方はニンジン、セロリなどを食べたときに主に口腔症状が特別までがあります。を物とき物の一部タンパクが類似しているため、その食物を摂取したときに免疫が勘違いして反応する症状です。
- ●花粉以外の秋のアレルゲン、意外と知られていない「昆虫」 秋はガやユスリカなどの昆虫アレルゲンの空中における抗原濃度 がもっとも高くなる季節です。 ガは翅の鱗粉や死骸、ユスリカは死骸が粉状になったものを吸入 することにより、ぜんそくやアレルギー性鼻炎を引き起こします。 特にガは屋内に生息するイガやメイガもアレルゲンとなるため注 意が必要です。 これらの昆虫アレルゲンは一般にはあまりしられていませんが感 作率が高く、重要なアレルゲンです。
- ●年間を通じて要注意! ダニ・ハウスダスト、イヌネコなどのペット、ゴキブリ、秋に限らず、ハウスダスト、ダニ、イヌ・ネコ・ハムスターなどのペットのふけ、ゴキブリは年間を通じて存在しています。

これらを吸入するとぜんそくやアレルギー性鼻炎が引き起こされることがあります。室内塵中におけるダニの抗原量(死骸やフンなど)は秋に最大化しますので花粉症と思っていたら意外とハウ スダスト、ダニかもしれません。

- ●重症化を防ぐには? アレルゲンの除去と回避が重要 アレルゲンの除去と回避はアレルギー性鼻炎の治療の基本とされ 「鼻アレルギー診療ガイドライン2020」に記載されている治療法では、1. 患者とのコミュニケーション 2. 抗原除去と回避3. 薬物療法 4. アレルデアで大変療法 5. 手術療法とあり、 抗原除去と回避は非常に重要です。
- 便宜」が有効 アレルゲンを除去・回避するには、原因となるアレルゲンを知らなくてはなりません。 また原因抗原は一つとは限らないため、アレルギー検査は適切な 診断をサポートします。

学術研究発表

2023年5月20日~5月21日に開催されておりました、 第72回日本医学検査学会にて弊社技師が発表を行ないましたので 紹介させていただきます。

【演題】 フェリチンキットFER-ラテックスRX試薬の基礎検討及び標準物質 測定について

詳しくは、下記 URL をご参照ください。 http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/gakuzyutu2023-09.pdf

L 3 . KMLインフォメーション 7月~9月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されま した「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けして おりますが、ご確認などに活用していただければ幸いです。

2023年 7月29日 一部報告遅延のお知らせ https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0729.pdf

2023年 8月29日 一部報告遅延 解消のお知らせ https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0829.pdf

2023年 9月 5日 検査容器変更のお知らせ https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0905.pdf

最後までお読みいただきまして有り難う御座いました。

https://www.kml-net.co.jp/ 株式会社 京浜予防医学研究所 神奈川県川崎市宮前区南野川 3-22-1 編集/発行 〒216-0042